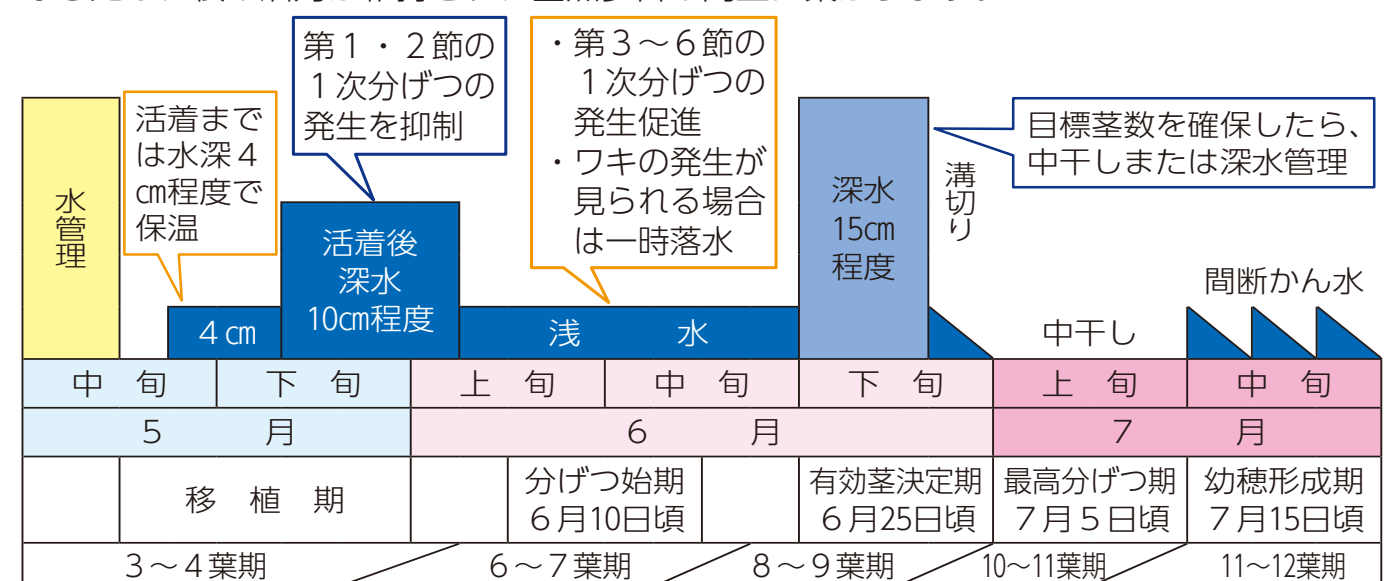




葉いもちの予防対策を徹底しましょう！

●オリゼメート粒剤やルーチン粒剤の散布は感染前に！

葉いもちは例年6月20日～25日頃には感染、7月上旬には病斑が見え始めます。オリゼメート粒剤（2kg/10a）又はルーチン粒剤（1kg/10a）は防除効果を発現するまでに、散布後約7日を要しますので、**6月15日頃までに散布します。**

移植前や移植時の箱施用剤（いもち剤入り）や、移植時のペースト混和剤（いもち剤入り）を使用していない場合には、確実に散布しましょう。

また、散布時は湛水状態で田面に均一に散布して下さい。

6月15日頃まで オリゼメート やルーチン 散布時期	(1週間後→)	6月20日 ～25日頃 いもち病 感染時期	(1週間後～ 10日後→)	7月上旬 いもち病斑が 見え始めます
	稲に吸収さ れるまでの 期間		感染から 発病までの 期間	

【葉いもち用水面施用剤を散布する際の注意点】

- ・湛水状態で田面に均一に散布し、散布後4～5日間はかん水を行わない。
- ・周辺環境に配慮し、散布後7日間は落水やかけ流しをしない。

●いもち病を見つけたら！

ブラシン剤、ノンブラス剤、トライ剤（予防剤と治療剤の混合剤）の茎葉散布を実施し、その後、必要に応じてビーム剤を追加散布します。

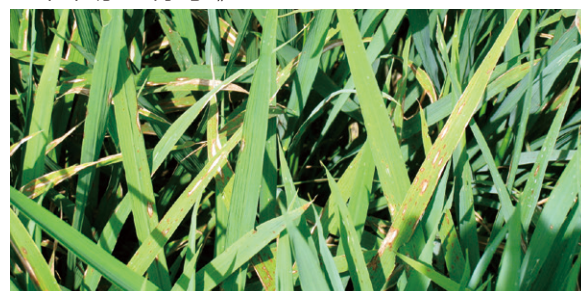
※フサライド剤（ラブサイド、ブラシン）、トリシクラゾール剤（ビーム、ノンブラス）の本田での総使用回数はそれぞれ3回以内、テブフロキン剤（トライ）は2回以内なので注意してください。

なお、育苗段階の使用もカウントされます。

薬 剤 名	剤 型		
	粉 剤 D L 3～4kg/10a	ゾル 1,000倍 100～150L/10a	フロアブル 1,000倍 100～150L/10a
ノ ン ブ ラ ス	○		○
ブ ラ シ ン	○		○
ビ ー ム	○	○	
ト ラ イ※1			○

※1 トライは60～150Lで1,000倍

《いもち病ズリコミ圃場の様子》



微量元素肥料の追肥（調節肥）で異常気象に強い稲を！

水稻はケイ酸や苦土等の微量元素を土壌から吸収しています。

微量元素の施用は、米の生産性や品質の向上、異常気象（高温、低温、強風等）に強い稲づくりに繋がります。

微量元素入り肥料（例）

肥 料 名	種 類	施肥量 (kg/10a)	施肥時期	備 考
けい 酸 加 里 サンメイト	ケ イ 酸 含有肥料	20kg	6月下旬 ～ 7月上旬	①倒伏抵抗性が高まる ⑤食味向上 ②根の活力向上 ⑥病害虫被害の軽減 ③有効茎歩合の向上 ⑦葉身の老化軽減 ④登熟歩合の向上 ⑧ワキの発生抑制
K S K 28		30kg		
マ グ ホ ス		1.4kg		
P K 化成40号	リ ン 酸 含有肥料	20～40kg		
		20kg		①根の活力向上 ③登熟歩合向上 ②有効茎歩合向上

初・中期除草剤使用後の残草対策

○ノビエやホタルイが残草すると圃場内がアカスジカスミカメの産卵・繁殖場所となります。適期を逃さず、中・後期除草剤で処理しましょう。

藻類、カナ表層はく離用除草剤		使用時期（移植水稻）	使用方法	成分数
モゲトン粒剤		藻類・表層はく離の発生時、収穫45日前まで	湛水散布	1
クリアホープフロアブル		移植直後～ノビエ1葉期まで（移植30日以内）		2
残草の種類	除草剤名	使用時期（移植水稻）	使用方法	成分数
ノビエのみ	クリンチャー1キロ粒剤	1kg／10a… 移植後7日～ノビエ4.0葉期まで 1.5kg／10a… 移植後25日～ノビエ5.0葉期まで	湛水散布	1
	ヒエクリーン1キロ粒剤 ワンステージ1キロ粒剤	移植後15日～ノビエ4.0葉期まで		
	トドメMF1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ5.0葉期まで		
ノビエ及び ホタルイ、 コナギ、 オモダカ等	レブラスギア1キロ粒剤 ゲパードギア1キロ粒剤	移植後14日～ノビエ4.0葉期まで	湛水散布	3
	ヒエクリーンバサグラン粒剤	移植後15日～ノビエ4.0葉期まで	ごく浅く 湛水して 散布	2
	クリンチャーバスME液剤 トドメバスMF液剤※	移植後15日～ノビエ5.0葉期まで ※トドメバスMF液剤はノビエ6.0葉期まで 使用量1000ml／10a 散布液量70～100L／10a	落水もし くはごく 浅く湛水 して散布	

除草剤の使用時期については、上記のノビエ葉齢期よりも早めの散布で効果が高まります。

「使用前、周囲よく見て ラベル見て」6/1から8/31までは「農薬危害防止運動」の実施期間です。

農薬によって使用量や希釈倍数、使用時期や使用方法等が異なりますので、使用前には **必ずラベルをよく読み適正に使用して下さい。**